【審査番号4】

埴生小・中学校整備事業 資料

埴生小・中学校整備事業に係る基本設計業務　基本設計説明書（概要版）

平成29年（2017年）2月

山陽小野田市

株式会社　教育施設研究所

１．計画概要

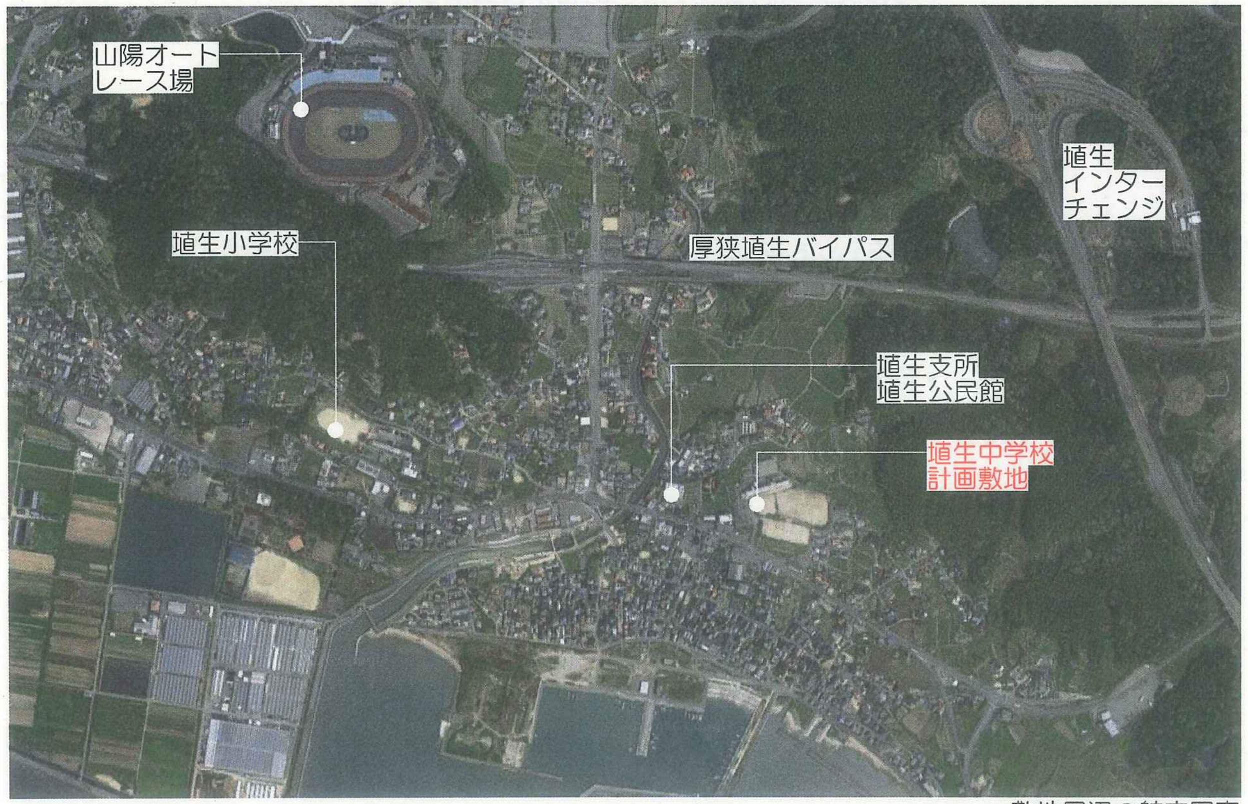
１－１．施設整備の概要

■ 施設整備の目的

- 計画敷地である埴生中学校から西へ約８００ｍにある埴生小学校は山陽小野田市内で唯一、耐震化未了の学校です。その耐震化未了の校舎４棟と老朽化の著しい木造校舎１棟の計５棟は、平成２６年度に実施した耐力度調査により、全て危険建物であることが判明しました。
これを受けて、埴生中学校の敷地を拡張造成し、そこに埴生小学校を移転し、小中一体型の学校施設を整備することを目的とします。
- この事業は、地震から児童生徒の生命を守り、子どもが少ない地域で一定の学習集団を確保し、学校における学びと生活を活気あるものにするとともに、人口減少社会における今後のまちづくりの方向性として指摘されている公共施設の集約化に合致した取り組みでもあります。

■ 計画敷地の概要

- 埴生中学校は、国道１９０号（旧国道２号）に隣接し、山陽自動車道埴生インターチェンジに繋がるバイパスと市街地を結ぶ幹線道路に程近い、丘陵地（海抜約１１ｍ）にあります。
- 周辺は、東側と北側が田園地帯、西側がＪＡ埴生、南側が私有地を隔てて国道となっています。
- 中学校校舎からは、南側に美しい周防灘の海岸線が見え、西側の遠くには九州へ繋がる関門橋を望むことができます。
- 国道の南側、埴生漁港までの間は住宅が密集しており、過去には高潮による被害が出ました。ハザードマップでは埴生中学校が緊急避難場所となっています。敷地から沿岸までの距離は約３００ｍ程度です。
- 敷地の北西約１ｋｍには山陽オートレース場があり、レース開催日を中心にやや大きな騒音があります。



敷地周辺の航空写真

■ 埴生中学校の状況

- 昭和４６年に校舎とプールが建設されました。平成２年に屋内運動場が完成し、旧講堂が撤去され、跡地は駐車場となっています。自衛隊航空機の騒音に関連して、校舎および屋内運動場は防音対策工事が施工されており、平成２３年には校舎の耐震化工事が完了しています。
- 校舎はＲＣ３階建ての片廊下式で、南側にアウトフレーム工法による耐震補強を行っています。

山陽小野田市埴生地区高潮避難地図

■ 計画上の留意点

- 中学校敷地南側に隣接して建設する予定の公共複合施設との連携に配慮し、敷地を直接結ぶ歩行者動線を確保するとともに、イベント時などに共用できる屋外空間、駐車場など、世代を超え積極的な「交流」を育むことができる環境整備を行います。
- 埴生小学校と埴生中学校の記念碑やモニュメント一つひとつを大切にし、歴史や伝統、文化を次世代へ繋ぐ、記憶の継承を図ります。既存樹木や記念樹もなるべく存置し、有効活用します。
- 自然環境豊かな埴生地区への愛着を育み、児童生徒の心に残るよう、眺望を生かした学校づくりを行います。
- 敷地が沿岸に近いことから、外装材には耐用年数の長いものやメンテナンスが不要の材料を選定します。

埴生中学校記念碑

埴生小学校記念碑

埴生小学校銅像

埴生小学校　象の木彫り

2. 設計方針・コンセプト

2－1. 施設整備の基本的な考え方

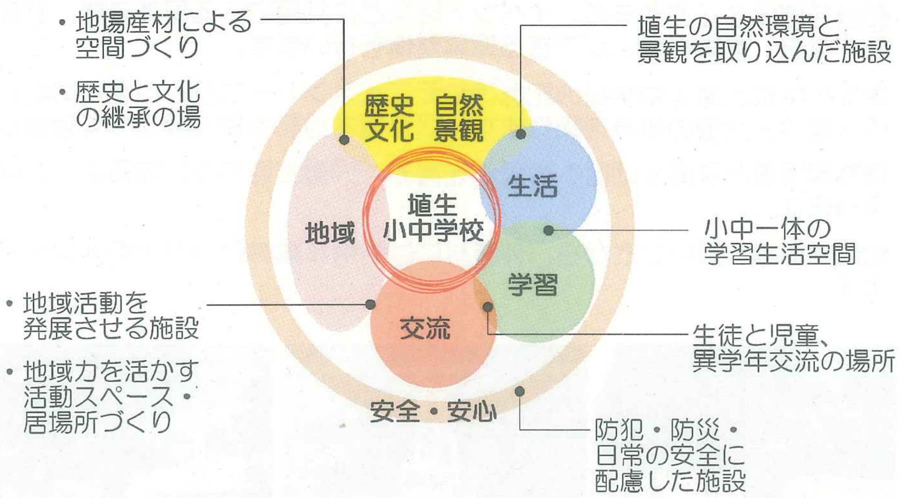
- 周辺の山並みと周防灘が伸びやかに広がる原風景を子供たちの記憶に残し、児童生徒が地域とともに、のびやかで生きいきと「学習・生活・交流」ができる学校づくりを行います。
- 埴生小中学校独自のここにしかない学校づくりを目指し、地域の環境・特徴を踏まえ、みんなの夢と想いを「かたち」にします。

■ 埴生中学校区の環境・特徴

- 小中学校の連携、繋がりを重視した学習基盤の推進
- 学校と家庭、地域が連携した「地域協育ネット」による教育支援
- 学校や地域固有の教育条件を生かし、発達段階に応じた教育課程の編成
- 周防灘に面した風通しの良い温暖な気候

■ 埴生小中学校独自のここにしかない学校づくり

1. 小中一体となって「ともに学ぶ」施設づくり
2. みんなが主体的・創造的に学べる学校づくり
3. ９年間の成長を受け止め、安心して学べる施設づくり
4. 自然豊かな埴生への愛着と誇りを育む環境デザイン



■地域特性を生かした埴生小中学校の整備概念

施設整備のコンセプト

1. 小中一体となって「ともに学ぶ」施設づくり
- 小中連携に配慮したコンパクトな施設構成
- みんないっしょの昇降口
- 機能的で快適な校務センターの整備

2. みんなが主体的・創造的に学べる学校づくり
- 主体的な学びを誘発する図書室
- 学校支援者が利用できる地域連携室の設置

3. ９年間の成長を受けとめ、安心して学べる施設づくり
- 多様な教育活動を受けとめる学習環境づくり
- 児童生徒の立場に立ったやさしい施設づくり
- 確実な手段による、信頼性の高い安全管理の実現

4. 自然豊かな埴生への愛着と誇りを育む環境デザイン
- 潤いと機能性を兼ね備えた外部空間の形成
- 自然の恩恵を取り込み、快適でやさしいエコスクールの創出
- 県産材を用いた温もりのある学校づくり

3．配置計画

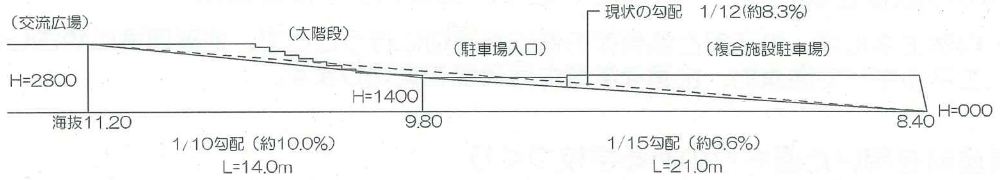
3－1．配置計画の設計方針

■ 合理的な施設配置と敷地の有効活用

- 児童棟は既設生徒棟の南側に配置し、建物をコンパクトにまとめることで、グラウンド等の屋外空間をできる限り広く確保します。
- 良好な採光、通風を確保できるよう、児童棟は東西に長い建物形状とします。
- 北側の生徒棟に十分な採光が得られるよう、児童棟と生徒棟の隣棟間隔について適切な距離を確保します。
- 教職員や保護者、来客用の駐車場は敷地西側の既存部分で再整備します。隣接する複合施設でのイベント時などでは学校駐車場も利用することを想定し、極力多くの駐車台数を確保します。
- 既存のグラウンドを中心に、北側の拡張造成部分や校舎南側部分を有効利用して日当たりが良く利用しやすいグラウンドを整備します。
- 体育器具庫や部室、屋外トイレを１棟で計画し、グラウンドの東側に配置します。
- 交流広場西側に生徒用の駐輪場を配置します。駐輪場は交流広場を吹き抜ける冬季の冷たい西風や強風を和らげる役割も持ちます。

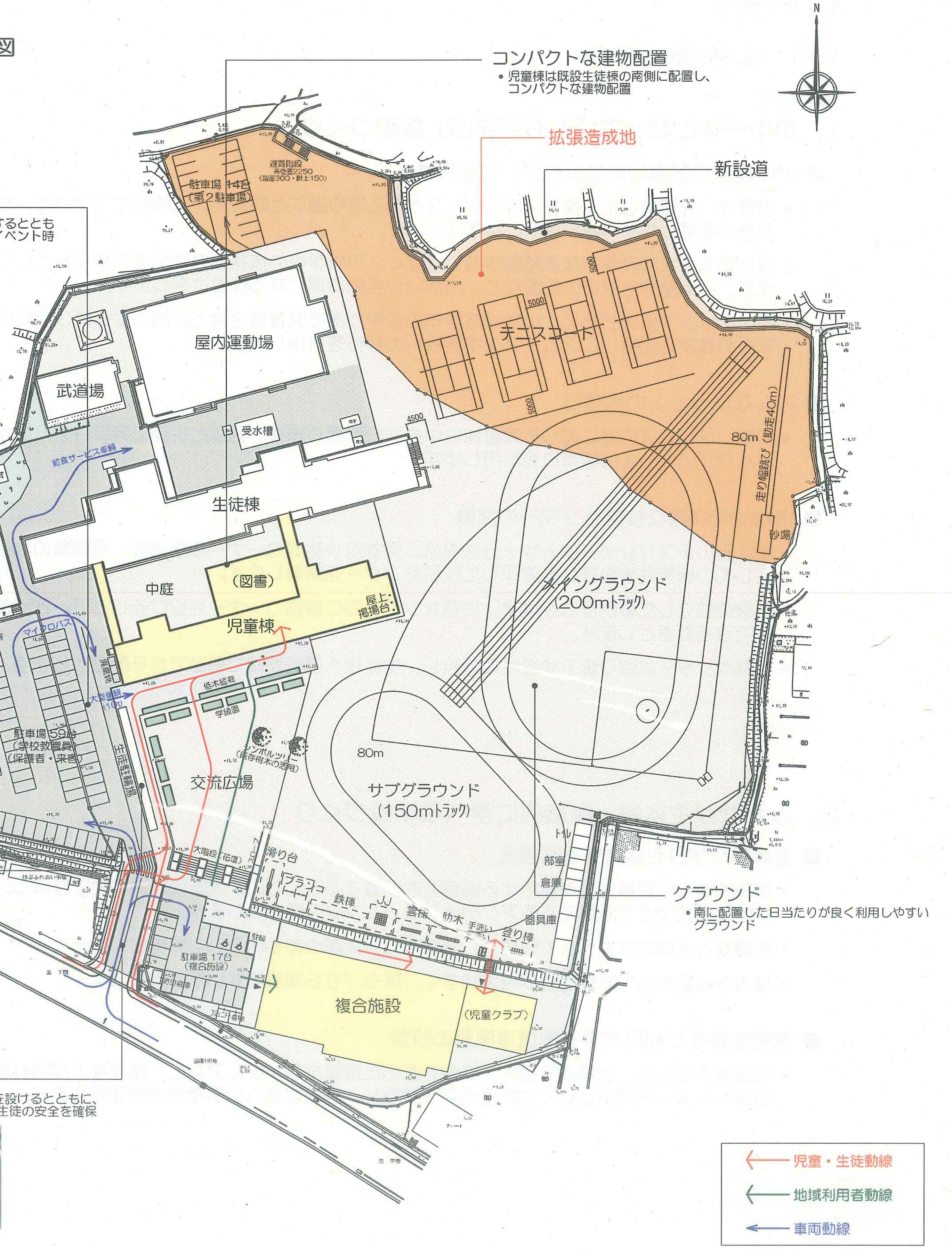
■ 安全に配慮した屋外動線計画

- アプローチ部分を含め、敷地内は歩車道の動線分離を徹底します。
- 国道から学校へのアプローチ部分は、幅６ｍの車道と車道の両側に幅２.５ｍの歩道を設けます。歩道と車道は異なる舗装仕上げとし、歩車道分離柵を設置して児童生徒の安全確保を徹底します。
- 日常は車輌の進入がないグラウンドや中庭へ、メンテナンス等で一時的に大型車輌が進入できるよう動線を確保するとともに、進入部分の有効幅員・有効高さを確保します。
- 給食搬入は、整備前と同様に西側の駐車場からプール横を通る動線とします。



交流広場ー国道190号　通路勾配断面図

3－2．配置計画図



ガードパイプイメージ

4. 平面計画

4－1. 施設計画の設計方針

1. 小中一体となって「ともに学ぶ」施設づくり

■ 小中連携に配慮したコンパクトな施設構成

- 校舎は、児童棟と生徒棟を交流スペースとなる渡り廊下と図書室、大階段でつないだ、わかりやすく連携しやすい施設構成とします。
- 渡り廊下や大階段を単なる移動空間ではなく、小中学校の情報発信や交流スポットとして捉えます。掲示壁やベンチの配置など、出会いや発見の場となる仕掛けをします。
- 中１ギャップ解消のため、小学校高学年の教室がある児童棟３階と同階の生徒棟３階に中学１年生の教室を配置し、スムーズな中学校への移行を目指します。

■ みんないっしょの昇降口

- 昇降口は、交流広場に面した児童棟の中央部に配置します。児童と生徒の昇降口を分散せず、みんながいっしょの昇降口を利用します。

■ 機能的で快適な校務センターの整備

- 学年別のデスクレイアウトや十分な収納、更衣室や給湯コーナーの整備等、教職員の執務空間としての機能性や快適性を確保した校務センターを整備します。
- 従来の独立した事務室は設けず、校務センター内に事務コーナーを設けることで、合理的に運用できる計画とします。
- 校務センターは渡り廊下や階段に近接し、生徒棟へ最短動線で移動できる配置とします。

2. みんなが主体的・創造的に学べる学校づくり

■ 主体的な学びを誘発する図書室

- 学校の中心に児童生徒が利用する図書室を配置するとともに、大階段を一体的に整備し、発表や学年集会などで活用できるアクティブラーニングの拠点とします。
- 図書室と大階段はガラスで仕切り、視覚的に一体感のある明るい空間構成とします。
- 校内を移動する中で図書室が見えやすく、誰もが立ち寄りやすい配置とします。

■ 学校支援者が利用できる地域連携室の設置

- 保護者をはじめ、各種支援団体、学生を含めた地域ボランティアなど、様々な人が訪れ活動するスペース・居場所として地域連携室を設置し、学校運営への積極的参加を促します。

3. ９年間の成長を受け止め、安心して学べる施設づくり

■ 多様な教育活動を受け止める学習環境づくり

- 学年のまとまりを大切にするとともに、教室廻りは児童生徒の成長段階に合わせた各学年にふさわしいものを整備します。また、少人数授業に対応できる教室を近接して設け、学級数の増減に対して柔軟に対応できる計画とします。

■ 児童生徒の立場に立ったやさしい施設づくり

- 足掛かりに配慮した高さの手すりや指詰め防止サッシの採用、大きなガラス面への衝突防止マークや飛散防止フィルム張りなど、安全に十分配慮した設計とします。
- 手洗いや便器、水飲み場などは、年齢層を考慮した大きさ・高さで計画します。
- 階段や廊下などの表示には、棟別や階別でカラーゾーニングを行い、わかりやすく明るい雰囲気にします。
- 航空機やオートバイの防音対策として高気密性サッシを採用し、児童生徒が集中して学習できる環境整備を行います。
- 日常生活で重要なトイレの時間も大切に考え、南側に面した明るく清潔で健康的な心の休まるトイレとします。また、各階に車いす対応の多目的トイレを設置します。

■ 確実な手段による信頼性の高い安全管理

- 管理諸室はグラウンドや駐車場、交流広場を見渡すことができ、昇降口に隣接し、少ない人数で児童生徒の様子を視認できる計画とします。
- 保健室は児童棟１階の西寄りに配置し、救急時の搬送に対応しやすい計画とします。

4. 自然豊かな埴生への愛着と誇りを育む環境デザイン

■ 潤いと機能性を兼ね備えた外部空間の形成

- 登下校の際に児童生徒みんなが通る歩行者空間を「交流広場」として整備します。
- 交流広場と南側の複合施設を緩やかな大階段で接続することで、地域との交流を促します。
- 記念樹の保存、記念碑の移設を行い、思い出を継承できる計画とします。

■ 自然の恩恵を取り込み、快適でやさしいエコスクールの創出

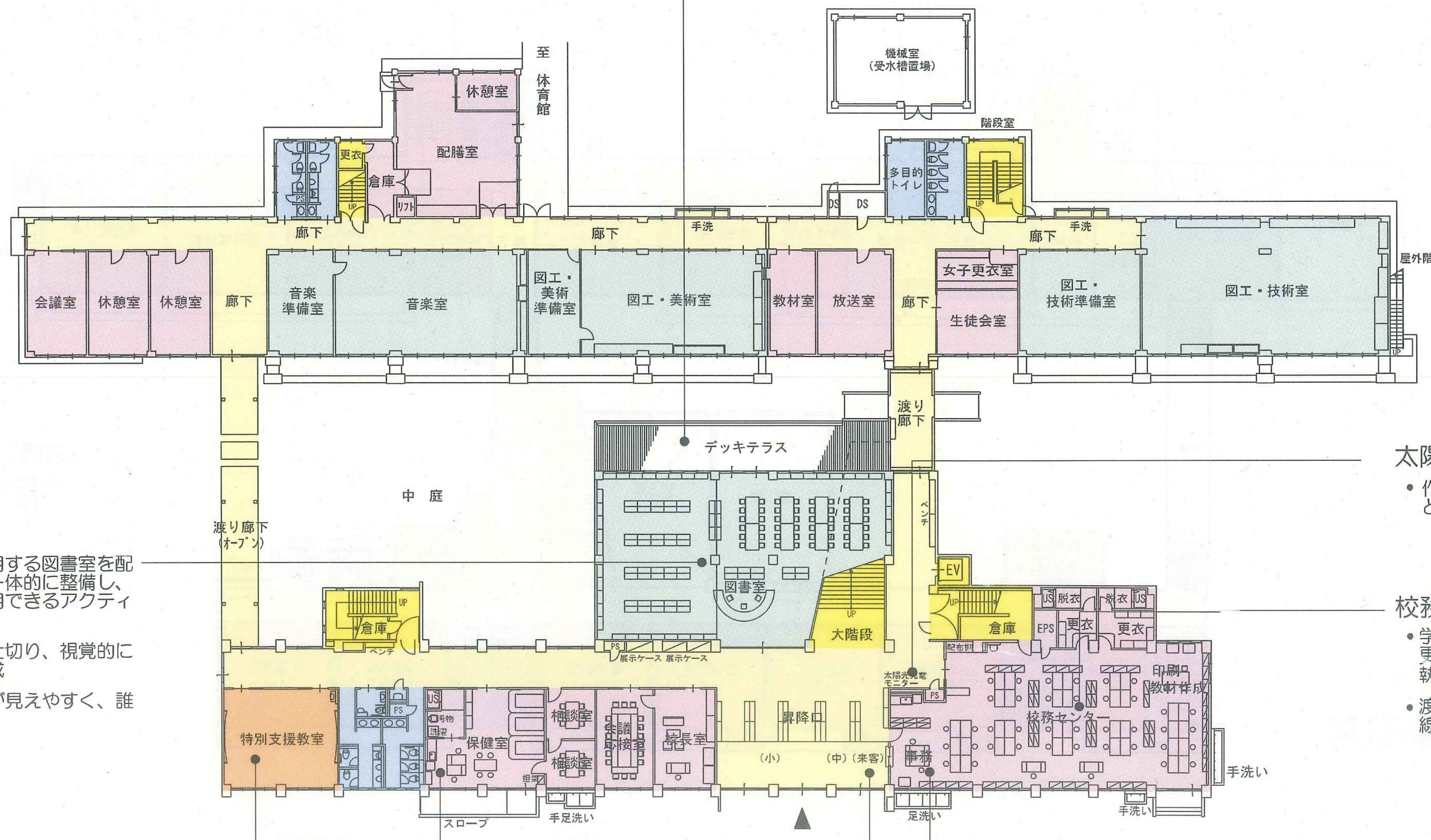
- 自然エネルギーの活用と熱負荷の低減を適切に行うことで、地球環境にやさしい計画とし、省エネルギーで健康的、快適な学習生活環境を実現します。

■ 県産材を用いた温もりのある学校づくり

- 地場産の木材を用いた内装計画とし、造り付けの家具や間仕切壁にも積極的に採用し、温かみのある健康的な空間づくりを行うことで、地産地消に寄与します。

4－2．各階平面計画

■ １階平面計画



デッキテラス
- 図書室に面して配置

太陽光発電モニター
- 作られるエネルギー量を子供たちが見ることができる環境教育教材として活用

図書室と大階段
- 学校の中心に児童生徒が利用する図書室を配置するとともに、大階段を一体的に整備し、発表や学年集会などでも活用できるアクティブラーニングの拠点
- 図書室と大階段はガラスで仕切り、視覚的に一体感のある明るい空間構成
- 校内を移動する中で図書室が見えやすく、誰もが立ち寄りやすい配置

校務センター
- 学年別のデスクレイアウトや十分な収納、更衣室や給湯コーナーの整備等、教職員の執務空間としての機能性や快適性を確保
- 渡り廊下や階段に近接し、生徒棟へ最短動線で移動できる配置

１階特別支援教室
- 肢体の不自由な児童も利用しやすい位置に計画

事務コーナー
- 従来の独立した事務室は設けず、校務センター内に事務コーナーを設けることで合理的に運用

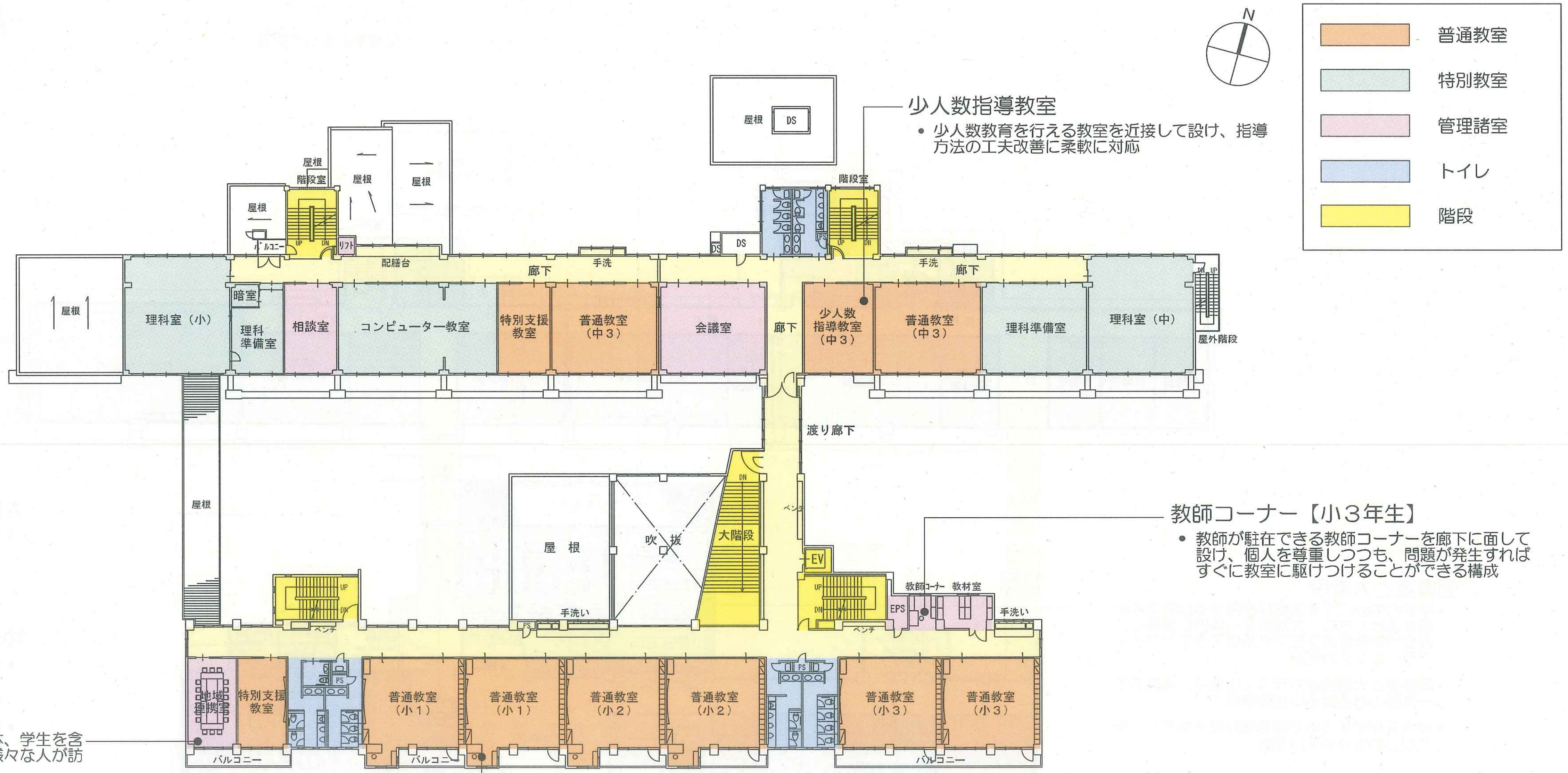
保健室
- 児童棟１階の西寄りに配置し、救急時の搬送にも速やかに対応

みんないっしょの昇降口
- 交流広場に面した児童棟の中央部に配置
- 児童と生徒の昇降口を分散せず、みんながいっしょの昇降口を利用

凡例：普通教室／特別教室／管理諸室／トイレ／階段

１階平面図　S=1/400

■ ２階平面計画



少人数指導教室
- 少人数教育を行える教室を近接して設け、指導方法の工夫改善に柔軟に対応

教師コーナー【小３年生】
- 教師が駐在できる教師コーナーを廊下に面して設け、個人を尊重しつつも、問題が発生すればすぐに教室に駆けつけることができる構成

地域連携室
- 保護者をはじめ、各種支援団体、学生を含めた地域ボランティアなど、様々な人が訪れ活動するスペース・居場所

教師コーナー【小１・２年生】
- 学級内での学習・生活を重視し、教室廻りに教師コーナーを配置する構成

２階平面図　S=1/400

■ 3階平面計画

普通教室	
特別教室	
管理諸室	
トイレ	
階段	

少人数指導教室

- 少人数教育を行える教室を近接して設け、指導方法の工夫改善に柔軟に対応

教師コーナー【小4～6年生】

- 教師が駐在できる教師コーナーを廊下に面して設け、個人を尊重しつつも、問題が発生すればすぐに教室に駆けつけることができる構成

3階平面図 S=1/400

巻末資料

1　計画の検討経過

第１回　山陽小野田市立埴生小・中学校建設委員会（平成２８年６月２１日開催）
・埴生小・中学校整備事業について
・建築設計事務所の選定について

第２回　山陽小野田市立埴生小・中学校建設委員会（平成２８年７月２６日開催）
第１回　埴生地区公共施設建設委員会（平成２８年７月２６日開催）
・埴生地区複合施設整備事業について

第２回　埴生地区公共施設建設委員会（平成２８年８月２５日開催）
・配置計画について

第３回　埴生地区公共施設建設委員会（平成２８年９月２１日開催）
・配置ゾーニングの決定について
・グラウンドレイアウトの方針について
・学校施設の設計条件整理について
・複合施設の設計条件整理について

第４回　埴生地区公共施設建設委員会（平成２８年１０月２５日開催）
・配置計画（グラウンドのゾーニング含む）の決定について
・学校施設の平面計画の方針決定及び立面、断面計画の検討について
・複合施設の平面計画の方針決定及び立面、断面計画の検討について

第５回　埴生地区公共施設建設委員会（平成２８年１１月２４日開催）
・学校施設の平面計画、立面・断面計画の決定について
・複合施設の平面計画、立面・断面計画の決定について

第６回　埴生地区公共施設建設委員会（平成２８年１２月２０日開催）
・イメージパース（完成予想図）の確認
・基本設計の概要確認

第７回　埴生地区公共施設建設委員会（平成２９年１月２６日開催）
・基本設計説明書（埴生小・中学校整備事業）の確認
・基本設計説明書（埴生地区複合施設整備事業）の確認

2　名簿

山陽小野田市立埴生小・中学校建設委員会

	職　名	氏　名	備　考
1	委員長	江澤　正思	教育長
2	副委員長	中村　眞也	埴生中学校地域コーディネーター
3	委　員	水田　三代春	埴生地区自治会協議会会長 （埴生ふるさとづくり協議会会長）
4	委　員	椺崎　八由美	埴生小学校地域コーディネーター
5	委　員	竹森　靖	埴生小学校ＰＴＡ会長
6	委　員	藤村　俊幸	埴生中学校ＰＴＡ会長
7	委　員	福永　繁雄	埴生小学校長
8	委　員	寒竹　新二	埴生中学校長
9	委　員	上田　博	津布田ふるさとづくり協議会会長
10	委　員	大下　邦雄	津布田小学校地域コーディネーター
11	委　員	米田　利明	津布田小学校ＰＴＡ会長
12	委　員	長冨　肇	津布田小学校長
13	委　員	楝久　佳子	教育委員
14	委　員	尾山　邦彦	教育部長
15	委　員	古谷　昌章	教育総務課長
16	委　員	和西　禎行	社会教育課長

埴生地区公共施設建設委員会

	職　名	氏　名	備　考
1	委員長	江澤　正思	教育長
2	副委員長	中村　眞也	埴生中学校地域コーディネーター
3	委　員	水田　三代春	埴生地区自治会協議会会長 （埴生ふるさとづくり協議会会長）
4	委　員	田中　龍夫	埴生地区自治会協議会副会長
5	委　員	千々松　武博	埴生ふるさとづくり協議会副会長 （埴生地区体育振興協議会会長）
6	委　員	林　紀男	埴生地区自治会協議会事務局長
7	委　員	椺崎　八由美	埴生小学校地域コーディネーター
8	委　員	竹森　靖	埴生小学校ＰＴＡ会長
9	委　員	藤村　俊幸	埴生中学校ＰＴＡ会長
10	委　員	角野　好美	埴生文化振興会会長
11	委　員	和田　雅子 （代理　竹森　紀久子）	食生活改善推進協議会 山陽支部埴生地区代表
12	委　員	大上　敏子	埴生小学校放課後子供教室 コーディネーター
13	委　員	福永　繁雄	埴生小学校長
14	委　員	寒竹　新二	埴生中学校長
15	委　員	上田　博	津布田ふるさとづくり協議会会長
16	委　員	大下　邦雄	津布田小学校地域コーディネーター
17	委　員	米田　利明	津布田小学校ＰＴＡ会長
18	委　員	長冨　肇	津布田小学校長
19	委　員	楝久　佳子	教育委員
20	委　員	吉本　光良	社会教育委員委員長
21	委　員	尾山　邦彦	教育部長
22	委　員	古谷　昌章	教育総務課長
23	委　員	和西　禎行	社会教育課長
24	委　員	佐々木　憲德	埴生公民館長
25	委　員	石本　善子	埴生支所長
26	委　員	川﨑　浩美	こども福祉課長